

NMO OfficeLetter

豪華列車「はなあかり」丹後路を疾走！

JR西日本は10月から福井、京都、兵庫の3県を走る新しい観光列車「はなあかり」をお披露目した。全車指定席の3車両編成で、1両は特別グリーン車となる。敦賀を出発し、小浜、舞鶴、宮津を経由し、最後は城崎温泉に至る。5時間ほどかけて、ゆっくりと走る行程だ。北陸新幹線の敦賀延伸を契機に、関東方面から城崎、丹後方面への観光客をゲットする意図だ。果たして、どれくらいの集客ができるか。



<解説>列車の愛称にはJR西日本の想いがこめられている。観光列車「はなあかり」は、西日本の様々な地域のおきに「あかりを灯し」、お客様と地域の縁を結ぶことを目指している。列車は奈良時代起源の紋付き染めで最高級とされる檳榔子染【びんろうじぞめ】色をまとい、車内には日本の四季を彩る草花をモチーフに、華やかな和の彩りを展開している。季節ごとに運行エリアを変えて、お客様と各地域を結び、地域のとおきを発信する。列車は、大阪駅～香住駅・浜坂駅・鳥取駅間を結ぶ

特急「はまかぜ」用車両キハ189系を改造、3両で定員わずか54名の列車になっている。過去にヒットした列車改造のプロをデザイナーとして起用し、徹底的に地元の製品を使用し、豪華な車内にこだわった。新たな座席種別スーパーグリーン車は、『籠』のような車内空間。ゆったりした本皮シートや大きなテーブル・コンセント等を設置。2・3号車は、快適な「広間」のような車内空間。360度回転する1+1列の独立した座席、ゆったりくつろげる広いボックス席(2名用と3～4名用)がある。2号車にはサロン(フリースペース)も。車内イベント



会場にもできる。当面は、土曜日・日曜日のみの運行になる。約180キロを土曜日・日曜日の2日間かけて1往復する。停車する駅も、上りと下りで停車駅が異なるという、珍しい方式を採用した。停車時間も長く、地元との交流も可能だという。停車駅では特製の弁当の販売も検討中で、地域の活性化にもつながることが期待されている。ちなみに、敦賀～城崎温泉の特別グリーン車の2人用特別席の大人一人の料金は約13,000円。1人で乗車の場合は、さらに5000円程度高くなる予定だ。